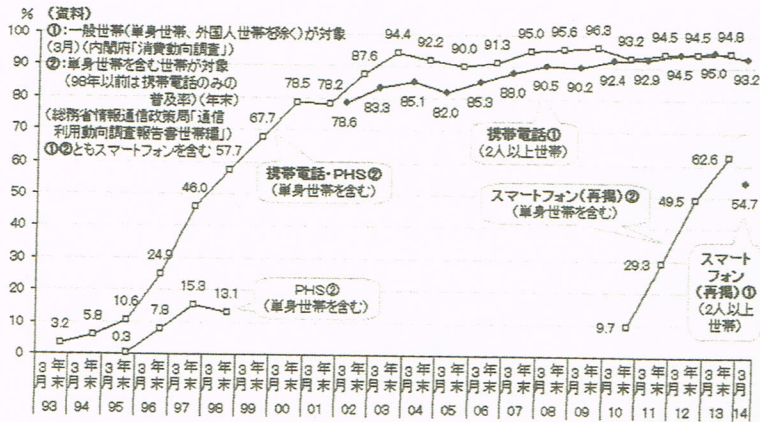
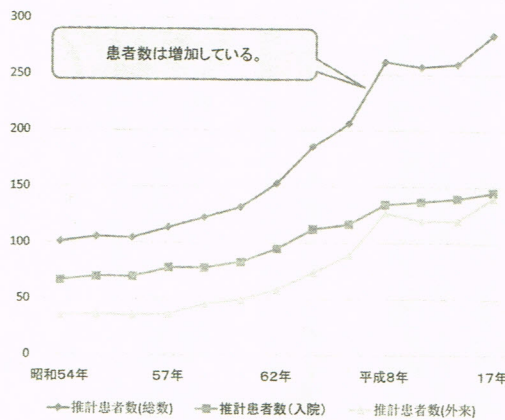


携帯電話世帯普及率



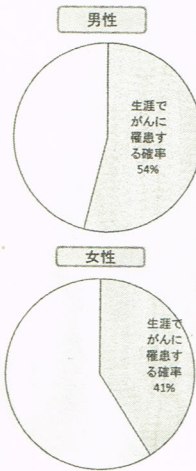
出典：社会実情データ図録

がん患者数の年次推移



平成8年から第10回修正国際疾病、傷害および死因統計分類 (ICD-10) を適用している。  
厚生労働省「H17年患者調査」より

生涯リスク  
～日本人の2人に1人ががんになる～



もつとも後述するように、癌の因子は電磁波だけではない。...  
一定の傾向があることは否定できない。  
携帯電話は一九九〇年代の初頭から普及が始まり、九〇年代の半ばを過ぎたころから、急激に日常生活の中に入ってくるようになっていった。二〇一三年の段階で、普及率は実に九五%にも達している。それに伴い基地局も増えている。市街で立ち止まってあたりを見回すと、必ずと言っていいほど、視界に携帯基地局が入ってくる。  
一方、癌患者が急増する時期は、図が示すように一九九〇年代の半ばである。携帯電話の普及が始まる時期と一致している。  
今後、スマートフォンなどワイヤレスの通信機器が普及するにつれて、ますます基地局が増え、癌になる危険性が高まることが予測される。